

次期京都市市民スポーツ振興計画 について

令和 7 年 7 月

京都市文化市民局市民スポーツ振興室

京都市市民スポーツ振興計画について

●計画の趣旨・位置付け

- ・ 「だれもが、いつでも、どこでも、いろんなかたちでスポーツに親しめる環境を、みんなで支え合う『スポーツごころ』を結ぶまちづくり」を理念に掲げ、その理念をまちづくりに生かし、市民の誰もがスポーツを楽しむことができるよう、京都らしい市民スポーツの実現に向けた取組を推進することを定めたもの。
- ・ 本計画は、「はばたけ未来へ！京プラン2025」の分野別計画及びスポーツ基本法において定めている地方スポーツ推進計画（努力義務）として位置付けている。

●現行計画の計画期間

平成23年4月～令和8年3月 ※令和9年3月まで延長予定

（参考）第3期スポーツ基本計画 計画期間：令和4年度～令和8年度

●現行計画の目標及び取組内容

スポーツを「する」「みる」「支える」の観点から推進するため、それぞれ数値目標を掲げたうえで、施設整備や各種スポーツ団体と連携した事業の実施、プロスポーツ振興等の取組を推進している。

現行計画における主な成果・実績

	計画掲載取組項目	主な成果・実績	実施年度
するスポーツ	施設の効果的・効率的な整備・運営	スポーツ施設の長寿命化計画の策定(西京極総合運動公園等)	H26、H30、R3
		宝が池球技場の改修、アーバンスポーツパークの新設	R6
	年齢や個性、環境に応じてだれもがスポーツを楽しむ機会の提供	市民スポーツフェスティバル、みんなのスポーツフェスタ、京都ツーデーウォークの開催	毎年
		スクエアボッチャ・モルック体験会実施	R4
みるスポーツ	競技環境と観戦環境の充実	たけびしスタジアム：大型映像装置・新メインゲート整備 メインスタンド諸室・トイレ改修	H27 H28～R2
		かたおかアリーナ：大規模改修工事	H25
		宝が池球技場の改修	R6
	総合スポーツイベントなどの開催	京都マラソンの開催	H23～
		プロ野球公式戦（オリックス）の誘致：わかさスタジアム京都	H27、H30
		3X3EXE PREMIER公式戦（ZIGEN UPDATER SE）の開催：平安神宮前	R1
		Tリーグ（京都カグヤライズ）開催支援：山科地域体育館等	R4～
支えるスポーツ	スポーツを支えるしくみづくり	京都マラソンボランティアの募集	毎年
		体育振興会在り方検討委員会において活動活性化方策をとりまとめ	R5
	スポーツを支える組織や団体等との連携・協働	プロチーム等との協力・連携促進を目的として、京都市スポーツを活かしたまちづくり推進市内連携チームを設置	R3～
		サンガ、ハンナリーズをはじめとするプロチームとの連携取組（ホームタウンデーによる連携、バスケットボール寄付プロジェクト等）	毎年

スポーツを取り巻く現状・課題

国レベルにおける現状・課題

- 人口減少に伴う競技人口の減少
- 子どものスポーツ離れ
 - ⇒（スポーツ庁 R6全国体力・運動能力、運動習慣等調査）体育以外の運動時間の横ばい・減少、スクリーンタイムの増加
（京都市スポーツ少年団）登録団数H26:244団→R6:133団、登録団員H26:6,422人→R6:2,804人
子どもの置かれる環境の変化（受験競争、外遊びの制限（場所、安全性）、指導者不足、保護者の負担）
- 若年層（子育て世帯）のスポーツ離れ
 - ⇒時間の制約（仕事、子育て）、共働き世帯の増加、経済的な負担、機会の不足（年齢にあう教室がない等）
- スポーツの概念（捉え方）の多様化（アーバンスポーツやウォーキング等のライトスポーツの普及拡大など）
- 国民スポーツ大会の在り方見直し
- 教育現場におけるスポーツ環境の見直し（部活動の地域展開、中体連の縮小等）
 - ⇒京都市は令和10（2028）年度に中学校部活動を廃止して、地域展開を図る予定

京都市における現状・課題

- スポーツ施設の老朽化
 - ⇒厳しい財政状況の中で、限られた予算ですべてのスポーツ施設の持続的な維持・修繕を図ることに苦慮
- 地域スポーツの担い手の減少・高齢化
 - ⇒各学区体育振興会等がスポーツを通じて地域コミュニティをつなぐ役割を果たしているが、担い手不足が続いている。
その一方で、総合型地域スポーツクラブは増加傾向にある。
- プロスポーツチームの市外へのホーム会場移転
 - ⇒京都サンガF.C.が令和2年にホームスタジアムを亀岡市へ、京都ハンナリーズも令和8年に向日市へホームアリーナ移転予定
- ワールドマスターズゲームズ2027関西のレガシー継承
- 健康寿命の延伸
 - ⇒（厚労省）令和4年数値 全国平均 男性:72.57歳、女性:75.45歳、京都市平均 男性:72.14歳 女性:75.78歳

スポーツに関連する今後の主な動き

●令和8（2026）年

- ・冬季オリンピック（ミラノ・コルティナ）開催（2月）

●令和9（2027）年

- ・ワールドマスターズゲームズ2027関西の開催（5月）
- ・全国中学校体育大会の一部競技廃止

●令和10（2028）年

- ・夏季オリンピック（ロサンゼルス）開催（7～8月）
- ・京都市立中学校における学校部活動地域展開を開始（8月以降）
- ・京都アリーナ（仮称）を開業（10月予定）

●令和14（2032）年

- ・わかさスタジアム（西京極野球場）開設100周年

次期京都市市民スポーツ振興計画を策定するに際しての視点（案）

スポーツを取り巻く環境は、時代の変遷とともに常に変化の波に晒されており、少子高齢化や競技人口の減少等の影響を受けて、直面している課題も複雑かつ多様化している。

次期京都市市民スポーツ振興計画については、こうした環境変化や各種課題等を踏まえつつ、スポーツが有する社会的な意義や役割を検証し、京都市が目指すウェルビーイングなまちづくりの実現に向けて、今後スポーツがどのように関わっていくのかという視点を持ちながら、将来的な市民スポーツ振興の理念やビジョン、取り組むべき方針等の検討を進めていく。

考えられる視点の例

- ・ スポーツ施設・利用環境等の整備、充実
- ・ 地域コミュニティ活性化を踏まえた地域スポーツ振興の推進
- ・ 中学校部活動地域展開への対応
- ・ スポーツによる健康増進
- ・ プロスポーツ等大規模スポーツ大会の誘致、スポーツツーリズムの推進
- ・ スポーツインテグリティの確保（暴力やハラスメント、差別等の脅威を排除すること）
- ・ 様々な分野が交じり、あらゆる世代がスポーツを楽しむことができるしくみづくり
- ・ 京都ならではのスポーツ振興の推進
- ・ 新たな視点でのスポーツ振興の推進（テクノロジーやエンタメ産業との連携・融合等）

今後のスケジュール（案）

令和7年度（2025年度）

- 7月 第1回絆会議
- 11～12月 第2回絆会議
- 12～ 2月 市民アンケート実施

令和8年度（2026年度）

- 5～ 6月 第1回絆会議
- 8～ 9月 第2回絆会議
- 11～12月 第3回絆会議
- 12～ 1月 パブリックコメント実施
- 3月 第4回絆会議、新計画策定